

# 全国医療ソーシャルワーカー協会会長会 第27回会議 議事録

日時:2021年11月6日(土)14:00~17:30

会場:オンライン開催(Zoom)

司会:外山(事務局)

議事録:樋渡(事務局)

参加者:46協会/71名

議事:

## 1. 開会挨拶

会長会副代表(一社)千葉県医療ソーシャルワーカー協会会長 浅野慎治より

## 2. 本日の進行について

会長会副代表 新潟県医療ソーシャルワーカー協会 坂詰明広より

## 4. グループ討議

参加者を所属協会・ブロックが重ならないよう設定したグループによるグループ討議

ファシリテーター:会長会役員

議題:検討事項1:部会報告と今後に向けての提案

実習マニュアル部会・キャリアラダー部会・研修部会(新設)

検討事項2:基礎調査について

検討事項3:ソーシャルアクションへの取り組みについて

第1グループ(木川):実習生を受け入れする施設を増やすこと主眼。新カリキュラムを反映することで賛成。キャリアラダー部会:会員の施設でキャリアラダー作られて、キャリアパスが形成されると良い。既に使用している協会もあった。研修部会については、オンラインでやれていない協会も。日本協会で開催している研修担当者会議との棲み分けを心配する声もあった。検討事項2.3まで討議できなかった。

第2グループ(伊藤):実習マニュアルについては、県によっては受け入れする数が限られている。参考にして、実習受入が増えていけばと思う。ラダー部会については、個々の病院で活用していければ。色々と情報交換するという点で研修部会ができると思う。

第3グループ(山田):実習マニュアルは新カリキュラムに対応したものにして欲しい。実施に向けてタイムテーブルを設けて。オンライン研修により離島にいる人が参加しやすく。基幹研修を共通コンテンツ化してオンデマンド配信できればよいのではないかと。ソーシャルアクションについては、東京都協会は東京都・政党に要望書を提出。秋田県では部会を作って対応。大阪では循環器病対策に力を入れている。キャリアラダーこのまま利用でよいのでは。

第4グループ(中瀬):実習マニュアル:実習生が減ってきている。マニュアルどう使っていくかまで深められていないことも。大学からの実習マニュアルもあるため、そちらの対応で精一杯。他職種でキャリアラダーがあり、MSWもあった方が良さそうと。研修部会については研修担当者会議との棲み分けはどうか。オンラインになったことで参加者が減ることもあれば増えることも。研修の案内について分かりやすい発信をお願いしたい。会員調査は協力したい。ソーシャルアクションについては、実施できていないところが多かったが、議員と会談している協会もあった。

第5グループ(中本):実習マニュアル部会は推進していきたい。協会内で情報共有しているが、活用までは至っていない。会員レベルで使っているところがあると聞いた。研修部会:オンラインになり研修が沢山できて整理ができない。研修がなんでもやれてしまい、全体で行うべき内容と地域で行うべき内容。研修のあり方、価値、参加者の意識など課題。基礎調査については、必要性を感じている。ただ、調査項目のボリュームについては検討が必要か。ソーシャルアクションについては、協会によって差があり。1つの政党に推薦状を出すことに抵抗がある協会も。ソーシャルアクションとロビー活動の棲み分け。各協会の会員数の動向についても議論。会員の増減の分析の必要性を感じている。実習については、コロナで受け入れがたかった。コロナ下での実習の在り方についてもマニュアルに組み込んで頂ければ。

第6グループ(青木):実習マニュアルは、各協会でも共有できていた。実習受入がまったくない、かぎられている、

受けていると協会によってさまざまだった。ラダーについては、協会内で共有はしているがそれ以上は進んでいない。研修部会については、他県の研修に参加しやすくなった。日本協会との研修の区別の検討が必要ではないか。

第7グループ(藤田):ラダーについて、内容の理解をどうしていけばよいか。活用の仕方について理解できていない。北海道協会の共有をどうすればよいか。公開する範囲を決めておければ。ホームページに載せる訳にもいかず。基礎調査について、実習指導者資格、認定取得状況を調べた協会あり。理事の負担が大きいため隔年での実施をお願いしたいという協会も。

第8グループ(平田):キャリアラダーと実習マニュアルについて。1つの基準という位置付け。各協会の中で活用が不十分。実習については養成校が少ない。養成校に病院のSW経験者が少ない、MSW志望者が少ないという課題が。基礎調査については、基礎調査については、実施できている協会、できていない協会あり。ソーシャルアクションについては、国会議員・県議会議員への働きかけについて、自民党への当初予算へ意見を述べる団体も。市議会の質問に反映させる取り組みをする団体も。

第9グループ(脇坂):実習マニュアルについてはホームページに掲載している協会もあれば、協会内に周知できていない協会も。ラダーについて、大分県では北海道協会にレクチャーを依頼しており、それを会長会で開催してはどうかという意見も。研修部会について運用面の課題として九州8県でも研修回数の差や予算、運用面での決まり事について話し合いができれば。基礎調査は各都道府県の動向が分かればいいな。他団体との連携具合も分かると参考になる。ソーシャルアクションについて、議連に加盟している国会議員から意見を求められる機会があり、三団体で参加。

第10グループ(西田):実習マニュアルとキャリアラダー。1部の協会では活用できていたが、九州でもキャリアラダーを作られたようでどちらを使うかという議論も。意見をやり取りする場、日本協会が行われる研修担当者会議との違い。

基礎調査については、調査をしたこともある協会もあればない協会も。会員動向について知る機会があることはよいことなので賛成。ソーシャルアクションについては、なかなか難しいという意見が。

### 3. 部会報告(提案)

#### ◆キャリアラダー部会

活用してくと言うことで異議なし。

◆実習マニュアル部会 ※実習マニュアルβ版の配信・アンケートを実施し、会長会版MSW実習マニュアル(2021年6月版)を発行した。

改訂作業についてメンバーを募って行っていくことで異議なし。

#### ◆研修部会

大塚(日本協会研修部業務執行理事):研修の内容についての検討を実施している。意見交換の場を設けていきたい。部会の設置については保留にしてはどうか。都道府県研修担当者会議については、今年度は開催予定。

佐野(神奈川県 副会長):日本協会との棲み分けについて。情報の共有の場は重要と考えているし、その点に異論はない。違いが分かりにくいとのグループワークでの意見も複数あったので、部会の設置については保留にしてはどうか。方法についてはもう少し整理検討した方が良いのではないか。

木川(北海道):日本協会の研修担当者会議が昨年開催されなかった。昨年大変だった。各協会が既に走らせている事業の情報交換なので、待っている余裕があるだろうか。タイムリーに研修担当者同士が困った時にダイレクトに相談できる場があればよいと思う。現場が困っているので、早く開始できると良いと思う。

平田(広島県):日本協会も含めて会長会なので整合性は関係が無いと考える。

取出(日本協会研修部理事):日本協会としても急ピッチで都道府県研修担当者会議のあり方について検討している。日本協会としても案を作成してお出しできればと思う。部会の設置については一旦保留として頂けないか。

小林(愛知県):オンラインでの研修の準備の費用、収録を業者委託。都道府県協会あちこちで研修開催しており、整理が必要。研修部会でなくとも、ワーキング・委員会という形で進めていければよいのでは。

坂詰(新潟県):北信越ブロックで代表者会議等で研修の話題が挙がる。北信越で輪番で開催する研究会は、石川がオンラインで開催すると決まった。ブロック内でも集合研修、オンラインなど開催方法に違いがある。始め

ていってはどうだろうか？

→保留ではなく、「情報交換の場」として始めていく。改めて案内させて頂く。

日本協会主催の都道府県協会研修担当者会議は、今年度開催を予定しており、本会議での違いが分かりにくいとの意見も踏まえ、概要を整理し、日程等、改めて案内する。

#### ◆基礎調査

協力していくということで一致。

#### ◆ソーシャルアクションへの取り組み

引き続き議論をしていく。

### 第2部

地域ブロックに分かれての意見交換

議題：会長会代表・役員の選出方法について

北海道・東北ブロック：伊藤（山形県）：会長会の出来た経緯について把握できてない為、その話を共有できてよかった。会長会は横の連携をする団体と認識した

関東ブロック：浅野（千葉県）ブロック内での役員選出や、会長会代表選出。研修部会は何をやるかアウトラインがいまいち見えていない。まずはそこから理解することが必要と感じた。役員選出は、過度に負担がかからないようなやり方で選出できると良いし、またブロック内で会長だけではない関わりを持っていきたい。

中部（北信越・東海合同）ブロック：太田（山梨県）ブロックの役員の決め方は話し合いで決めていくのが良い、今までの経過を知っている人がよいと意見が出た。基本は話し合いでの互選が望ましい。会長会代表については任期が必要ではないか。

関西ブロック：藤田（大阪府）：都道府県協会会長会代表任期と都道府県協会役員の任期の兼ね合いがある。一定の役割を果たすには協会内での理解も必要。

中国ブロック：日野（山口県）：会長会の目的、役員の役割について不明確になっている。まずはその点について確認が必要ではないか。ブロック内での情報共有も密にしていきたい。

四国ブロック：松本（愛媛県）：会長会の役員会に出て行くことについては2年の任期を付けて、県ごとに輪番でやっている。今後もこの方法でやっていく。各県の会長が継続なのかもそれぞれの事情。四国ブロックで研修ができないか。研修担当者で話す場ができないかという話が出ている。

九州・沖縄ブロック：脇坂（大分県）：8県の会長で話し合う機会が多く、合意を得やすい環境にある。熊本県が任期途中で会長交代しても継続して、会長会副代表を担うことについてブロック内で理解されている

→会長会代表の任期の上限については、会則について役員会で検討し、次回会長会の時に提案させて頂く。

補足：現在の役員の任期は、来年度の全国大会の直近の会長会まで。

#### 4. 各協会からの報告・情報提供について

・各協会の役員改選・活動状況、課題について情報提供。

##### 1 キャリアラダー部会（中村副代表）

キャリアラダー部会は今回で終了する予定。北海道協会の作成を尊重し、会長会としては会長会版のキャリアラダーとはせず、北海道協会のキャリアラダーを推奨して使用していく。

浅野（千葉県）：千葉県協会では指導者向けのルーブリックを作成した。北海道のキャリアラダーと併せて、千葉県協会のルーブリックも活用頂ければと思うがいかがか？

→キャリアラダー部会は終了とするため、キャリアラダーの活用方法や千葉県のルーブリックの扱いについては、別途協議の場を作るか否か今後役員会で検討していく。

##### 2 全国大会について

西田会長(和歌山県)より  
第70回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会(和歌山大会)の開催について案内。

野口会長(日本協会)より  
2023年度は東京都医療ソーシャルワーカー協会と共催で実施することとなった。  
平田会長(東京都)より  
第71回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会(東京大会)開催について挨拶。

林(会長会事務局)  
既に会長会MLで案内済だが、2024年度の開催地については未定。募集中ですので、質問も含め、組織運営部にご連絡を頂きたい。

### 3 各協会からの報告

中村(静岡県):7月3日に熱海市で土砂災害。皆様よりご心配頂きありがとうございました。静岡県社士会を通じて熱海市の被災者に対するニーズ調査を7/29に実施。社士会30名、M協会4名、P協会7名、2~3名1組で150世帯(約180名)を訪問。熱海市に伝え、被災生活の緩和に貢献した。熱海市から要請があれば引き続き協力していく予定。

野口(日本協会)  
議連の推薦状の依頼について、時間が短い中で協会の総意として対応が難しいという声もきいた。説明会へのご参加を頂いたことも感謝している。ロビー活動をどうやって行くのか検討している。改めて文章でお示しさせて頂く予定。医療基本法のシンポジウムが開催される。基礎調査についてのご意見は、組織運営部へ寄せてほしい。

坂詰(新潟県)  
新潟県から両立支援についてアクションプランの提出を求められている。また、循環器病対策協議会。新潟県協会によって構成員として参画している。県予算でのシンポジウムの開催を打診されている。他の都道府県協会がどのように対応しているがMLを通じて情報交換をしていきたい。

杉野(長野県):長野県協会では、日本協会からの推薦状の依頼件。モヤモヤしている。政策や法案について関わっていくことには意義を感じるし、日本協会がこれまで取り組んでこられたことには感謝している。しかし、ある特定の議員の応援を求められたことにはモヤモヤしている。モヤモヤしているという表現にとどめる。見解を示していただけるということなので、会長会加入の皆が共有できるようにお願いしたい。

野口(日本協会):見解が出来しだい、会長会加入の皆へ共有します。

藤田(会長会代表)  
第28回については、和歌山大会の際に開催を予定。但し、コロナ禍のため、全員集合という訳にはいかないことから、ハイブリッド・オンラインなど開催方法について日本協会・和歌山県協会と相談しながら決めていく。

大塚(日本協会研修統括部業務執行理事)  
・都道府県協会研修担当者会議は、後日改めて案内する。

林(日本協会組織運営部兼認定事業部業務執行理事)  
・社会貢献事業部で「都道府県協会 社会貢献事業担当者会議」を初めて開催する。会議というより、日本協会が行っている社会貢献事業を共有し、各協会との意見交換と理解してほしい。改めて会長会MLで案内させて頂く。  
・認定事業部の報告は、事前に配布した資料のとおりだが、認定社会福祉士の申請要件であるスーパービジョンについてグループスーパービジョンも対象となる予定。具体的な運用は、改めて会長会MLでも知らせていきたい。

### 5. 閉会挨拶

会長会副代表 山形県医療ソーシャルワーカー協会会長 伊藤直行より